

# 2016年度より、 スポーツ健康学研究科が スタートします。

即戦力としてスポーツ・健康の社会的発展に貢献できる人材を生み出すことを目的に、より高度な専門知識と理論を修得した専門的職業人や研究者を育成する、スポーツ健康学研究科がスタートします。

本研究科は、法政スポーツの伝統と実績を基に、スポーツ・健康を多角的に捉え、新たな知見を生み出し、スポーツ情報の発信に貢献できる人材を養成していきます。

文部科学省に設置認可申請中 ※計画については変更が生じることがあります。



## 「スポーツ健康学研究科」の 開設にあたって

スポーツは、人間の身体を動かしたいという根元的な欲求に応え、達成感や連帯感の充足を促す、人類が創造した他に代え難い重要な文化活動の一つです。特に今世紀に入ってから、社会構造の変化とともに、スポーツと健康に対するニーズの量的な拡大と質的な高度化が見られてきました。しかも2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることとなった今、日本国内にはメダルへの大きな期待と、スポーツ界の構造の変化を求める動きが渦巻いています。

法政大学スポーツ健康学研究科は、広範なスポーツ健康学に関わる基礎知識と実践力を兼ね備え、社会のスポーツ健康学分野において即戦力として活躍できる高度専門的職業人を養成する使命を掲げて設立します。これにより、健康の維持・増進、スポーツの発展、学校教育などに関わる多様な領域で社会に寄与していきたいと思えます。

「スポーツ健康学研究科」 設置準備委員会委員長 高見 京太 教授

## スポーツ健康学研究科の特色

「健やかで生きがいを持ち、より充実した人生を長く送りたい」これは私たち共通の望みです。特に急速に高齢化する我が国においては、高齢者を身体面、精神面から援助し、医療と介護の間にあるギャップを埋める、運動やスポーツの持つ潜在的な力をより高いレベルで提供できる人材が求められています。また、オリンピックをはじめ競技スポーツを支えているのは、最先端の科学的サポート、優れたコーチングであり、法政大学において長年培われてきた、スポーツ分野における活動、成果を研究面で集約し、発信していく必要があります。それらのニーズに応えるべく2016年度開設に向けて、スポーツ健康学研究科設置の準備をしています。本研究科の養成する人材は、医療・健康関連産業、自治体での地域スポーツ・生涯スポーツ指導者、専修免許を取得した中学・高等学校の保健体育科教員、大学・研究所などの教育研究機関、スポーツジャーナリズムなど多様な進路に進むことが予想されています。

### — 社会的ニーズ —



### — 養成する人材像 —

体育・スポーツ系  
学部教育の修得者

スポーツトレーナー

各種スポーツのコーチ

コメディカルスタッフ

スポーツクラブスタッフ

スポーツ選手

中学・高等学校教員

など

スポーツ健康学の専門的知識を高度に発展させ、  
その成果を実社会において正確かつ柔軟に応用できる  
能力を有する専門的職業人

# スポーツ健康学専攻

Graduate School of Sports and Health Studies / Major in Sports and Health Studies

募集人員：修士課程 10名 | 開講形態：**夜間・開講** | キャンパス：多摩

予想される主な進路：医療・健康関連産業、自治体での地域スポーツ・生涯スポーツ指導者、中学・高等学校の保健体育科教員、大学・研究所などの教育研究機関、スポーツジャーナリズム関連など

## 健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる 多様な領域に寄与できる高度専門的職業人を養成する。

法政大学大学院スポーツ健康学研究科が目的とするのは、スポーツ健康学の分野において現代社会が期待する多面的な高度専門的職業人の養成です。これを実現させるためには「スポーツ健康学」分野において、ある特定の専門分野を深化させるだけではなく、関連する分野を総合的に学んでいくことが必要です。幅広いスポーツ健康学に関わる基礎知識をベースに、スポーツと健康づくりに関わる各種の教育や事業を企画・立案、管理・運営、実践・指導、点検・評価することのできる実践力の高い人材を育成し、健康の維持・増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与していきます。

スポーツ健康学研究科はこれらを踏まえ、「スポーツ健康学」を教育研究の土台としながらも、これまでの枠組みに縛られることなく、最新のスポーツ科学と健康科学を“総合的”に展開するものです。

### 教員養成

本研究科は、中学校・高等学校教諭専修免許状（保健体育）の取得が可能です。

「保健体育科」が意図する「保健」と「体育」の調和という原点に立ち返り、常に健康との関わりの中で、スポーツ・教材のあり方を考究できる教員を目標とし、「保健体育科教育法特別演習」などによって、現場に即した実践力のある教員の養成を目指します。

### アドミッション・ポリシー

（学生の受け入れ方針）

広範なスポーツ健康学に関わる基礎知識と実践力を兼ね備えた、社会のスポーツ健康学分野における多様なシーンにおいて即戦力として活躍できる高度専門的職業人の養成を目指していることから、以下のような人材を求めている。

- (1) スポーツ健康学の社会的な諸課題の解決に強い関心と行動力を有する者。
- (2) 理論と実践を通じた研究活動を展開し、社会に還元する意欲のある者。
- (3) 法政大学の自由な学問的伝統の中で、さまざまな学問域と連携を図りながら高度な研究を展開する意志と能力を有する者。

### カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施方針）

スポーツ健康学を究め、人と健康に関する諸問題を発見し、解決する能力を鍛え上げ、国際社会で活躍できる人材を育成することを目標に、基礎科目、展開科目、研究指導科目を設置する。

基礎科目は、専門的な知識や技術の修得を目指しながらも、基礎的な素養を涵養し、また周辺領域の知識を身に付けさせることを目的として設置する。展開科目は、基礎科目で修得した知識を土台にして、修了後の職業を見据えた専門的な学びを発展させることを目的としており、スポーツ・健康に関わる理論的知識を修得させる特論科目と重要な課題に対し実践的な対応能力を身に付けさせる演習科目から構成される。なお、展開科目では、「スポーツ健康学」の多様性に鑑み、科目群ごとの履修条件は設けない。研究指導科目は、2年間を通して担当教員による指導の下、修士論文作成に向けた工程を確実に進められるように構成されている。

### ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

スポーツ健康学に関わる専門的で高度な「知識」と「実践力」を持ち、社会へ還元できる高度専門的職業人の育成を目標としている。これらの能力・力量は、研究科の課程が規定する所定単位の修得および論文審査に合格することで達成したと判断する。

## カリキュラム編成について

スポーツと健康増進を社会において実践するために、自然科学系・人文社会科学系のあらゆる分野の研究成果を総合的に活用できるように3つの科目群を設け、これらを有機的に学ぶことができます。

スポーツコーチング科目群	ヘルスプロモーション科目群	スポーツマネジメント科目群
アスリートの競技力向上から生涯スポーツに関する運動習慣の獲得まで幅広いスポーツへの取り組みを、的確で効果的に実践する方法を指導現場での教授法も含めて学びます。	身体の構造や機能に関する医・科学的理解を基礎に、健康を維持増進するための身体的メカニズムのみならず、社会の諸制度を含めて幅広く学びます。	社会におけるスポーツの意義・役割について研究を行い、社会科学系の諸科学における知見と方法を用いて解析することにより、ビジネスとしてのスポーツの運営・経営、メディアの構造などを学びます。

## 専任教員と担当科目

（2016年度予定） 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

<b>安藤 正志 教授</b> 専 リハビリテーション医学 研 運動学、運動療法 担 運動器疾患特論	<b>荻部 俊二 教授</b> 専 スポーツコーチング学、スポーツ心理学 研 身体運動と言語イメージに関する研究 担 スポーツコーチング学特論
--	---

<b>木下 訓光 教授</b> 専 スポーツ医学、循環器病学 研 スポーツ心臓、アスリートの突然死、運動処方、生活習慣病の運動療法、持久系スポーツの医科学 担 スポーツ健康学特論Ⅱ（自然科学）	<b>高見 京太 教授</b> 専 運動生理学、発育発達学 研 子供の活動や生活習慣と体力・健康づくりに関する研究、身体活動のエネルギー消費量に関する研究 担 発育発達学特論
--	---

<b>永木 耕介 教授</b> 専 スポーツ教育学 研 教材文化論、武道教育論 担 スポーツ教育学特論 保健体育科教育法特別演習	<b>中澤 史 教授</b> 専 スポーツ心理学 研 アスリートの心理サポート（スポーツメンタルトレーニング・スポーツカウンセリング）、体育授業・運動部活動の心理学 担 スポーツ健康学特論Ⅰ（心身科学） スポーツメンタルトレーニング演習
--	--

<b>日浦 幹夫 教授</b> 専 スポーツ医学、脳神経外科学 研 運動負荷時脳循環・酸素代謝 担 スポーツ健康学特論Ⅱ（自然科学）	<b>山本 浩 教授</b> 専 コミュニケーション論、ジャーナリズム論 研 スポーツのシーンのコミュニケーション、スポーツ実況の変遷、タレント発掘とプロ化 担 スポーツジャーナリズム特論
--	--

<b>荒井 弘和 准教授</b> 専 スポーツ心理学、健康心理学 研 スポーツ選手の競技力向上の支援（メンタルトレーニング・チームビルディング）、ソーシャルマーケティングによる生涯スポーツの普及 担 チームビルディング演習 健康心理学特論	<b>泉 重樹 准教授</b> 専 アスレティックトレーニング、スポーツ医学、鍼灸学 研 体幹（腰部）の動作とエクササイズ評価、スポーツ外傷・障害に対する鍼治療 担 スポーツトレーニング学特論 アスレティックトレーニング特別演習
---	--

<b>井上 尊寛 専任講師</b> 専 スポーツ産業学、スポーツマーケティング 研 プロスポーツクラブのブランド形成、スポーツにおけるCSR 担 スポーツ産業学特論 スポーツマーケティングリサーチ演習	<b>林 容市 専任講師</b> 専 生理心理学、応用健康科学 研 身体活動・スポーツ動作の感覚認知と運動制御、生理的状態と心理的情報との対応、種々の身体パフォーマンスに関係する体力の測定・評価 担 健康体力学特論 体力・機能測定評価演習
--	---

<b>[ 2016年4月着任予定 ]</b> 専 学校保健、健康教育、公衆衛生 研 公衆衛生学、学校保健 担 公衆衛生学特論 学校保健学特論	<b>[ 2016年4月着任予定 ]</b> 専 スポーツバイオメカニクス、トレーニング科学 研 投球動作の分析、瞬発的なパワー発揮を向上させるための筋力トレーニング 担 スポーツ運動学特論 スポーツバイオメカニクス特論
--	--

<b>[ 2017年4月着任予定 ]</b> 専 スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動 研 スポーツサービス、スポーツファン、ファンサービス、スポーツの社会的効果 担 スポーツマネジメント特論 スポーツ消費者行動特論 スポーツフィールドスタディー演習	
--	--

## 設置科目

（2016年度予定）※開講科目は年度により異なります。（ ）内は単位数

<修士課程>	スポーツ運動学特論(2)	健康体力学特論(2)	スポーツジャーナリズム特論(2)
<基礎科目>	スポーツバイオメカニクス特論(2)	健康心理学特論(2)	スポーツメディア特論(2)
研究デザイン・フィロソフィー(2)	スポーツトレーニング学特論(2)	スポーツ栄養学特論(2)	スポーツ団体構造特論(2)
スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学)(2)	発育発達学特論(2)	運動器疾患特論(2)	スポーツ消費者行動特論(2)
スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学)(2)	スポーツ教育学特論(2)	学校保健学特論(2)	スポーツフィールドスタディー演習(2)
スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学)(2)	スポーツメンタルトレーニング演習(2)	体力・機能測定評価演習(2)	スポーツマーケティングリサーチ演習(2)
<研究指導科目>	チームビルディング演習(2)	運動疫学演習(2)	
スポーツ健康学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(各2)	アスレティックトレーニング特別演習(2)	<b>●スポーツマネジメント科目群</b>	
<展開科目>	保健体育科教育法特別演習(2)	スポーツマネジメント特論(2)	
<b>●スポーツコーチング科目群</b>	<b>●ヘルスプロモーション科目群</b>	スポーツ産業学特論(2)	
スポーツコーチング学特論(2)	公衆衛生学特論(2)	スポーツ健康政策学特論(2)	